



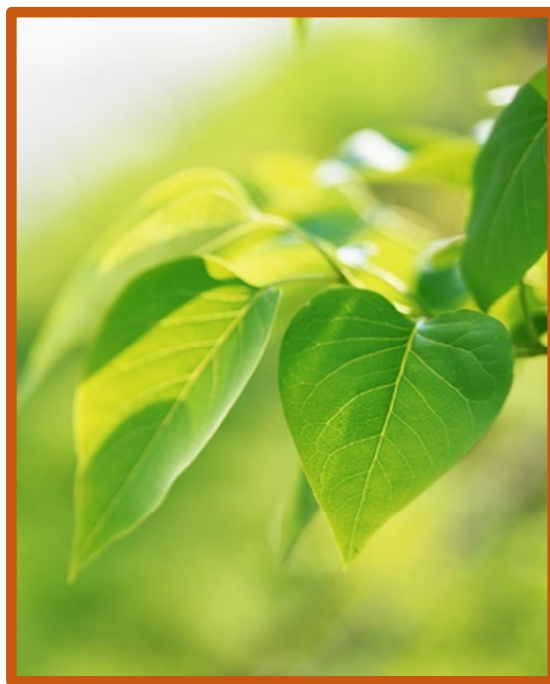
次期学習指導要領に向けて

出典：「令和7年7月28日 中央教育審議会 教育課程企画特別部会資料1」

中高の円滑な接続に資する高等学校入学者選抜

<現状と課題>

- 個別の知識を単純に問う出題が依然残っており、出題全体のバランスを踏まえた改善が必要
- 入試を背景にした保護者の懸念や要望等が教科書を網羅的に指導するとの認識につながっているとの指摘あり。
- 多様な背景を有する子供たちの大幅な増加（不登校、特異な才能・障害、外国籍等）
- 無償化の流れを受けた各校の特色化・魅力化の推進の必要性
⇒ 学ぶ意欲を有する生徒に対して、希望する学びの場が確保されるための手段として選抜の在り方を検討することが必要



<学力検査の改善>

- 中学校以下の授業改善に資する観点を含め、思考力・判断力・表現力等を問う出題の充実に係る課題の整理を国として支援すべき
- 出題方針の公表、作問解説、都全体・各学校の分析結果の共有等の促進により、中学校の授業改善や進路選択、高校入学後の学習の充実につなげる

<多様な選抜方法の拡充>

- スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえた 多様な選抜方法を導入する場合、どのような方法や留意事項があるかを整理
- 不登校生徒や障害のある生徒等、多様な背景を有する生徒の個性・特性を十分に踏まえた選抜を充実させるための留意事項を整理
- 生徒や地域の実情に鑑み、学力検査を行わないことができる選抜や、調査書を用いないことができる選抜の取扱い等について整理

先輩たちの行いや考え方の中に、解決のヒントがある

ふる たず も し な
故きを温ねて新しきを知れば、以って師と為るべし。

（訳）昔の人の教えや過去のことについて学習し、そこから新しい考え方や取組を見付けることができる、先生となることができる。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）